

# 14 ジオネットストーンの施工方法

「ジオネットストーン」カラーページP.227

## 〈施工方法〉

### ① 路盤施工

クラッシュラン(C-30またはRC-30)を、仕上がり高さを考慮し、厚さ100mmになるよう十分に締固めを行い、平坦な路盤を作ります。排水勾配は必ず路盤で確保してください。

P.18参照

### ② 敷きモルタル下地の施工

敷きモルタルは、セメント:骨材=1:2.5(容積比)程度とし、骨材には、細骨材に加えて25mm以下の砂利などを使用してください。練ったモルタルを、仕上がり高さ50mmを考慮し、ならし板およびゴテを用いて平らにします。

### ③ ジオネットストーンの敷設

敷き始めの基準点および基準線を設定します。基準点は長い直線で設置されている縁石などの1点とし、その基準点を通り、直交する2本の基準線を水糸で設定します。

モルタル下地上に貼り付けモルタルまたはセメントペーストを施し、これらにきい込むように木片をハンマーなどでたたいて固定します。製品の移動に留意し、適切に伸縮目地を設けてください。



### ④ 端部処理

規格ユニットで納まらない場合は、ジオネットストーンをダイヤモンドカッターなどで切断加工して納めます。端部に縁石を使用しない場合は、側面をモルタル、またはコンクリートで端部固定処理を行ってください。

### ⑤ 目地詰め

目地材には既調合目地モルタルなどを用い、下地とのすき間ができないように十分に充て込んでください。目地幅は10mmを標準とし、目地詰めの高さは、ジオネットストーンの表面と同レベルとしてください。



### ⑥ 仕上げ

ジオネットストーンの表面に付着した目地モルタルを、水で濡らしたスポンジなどを用いて、きれいに拭き取ってください。また必要に応じて、目地ゴテによる目地押さえ作業を行ってください。

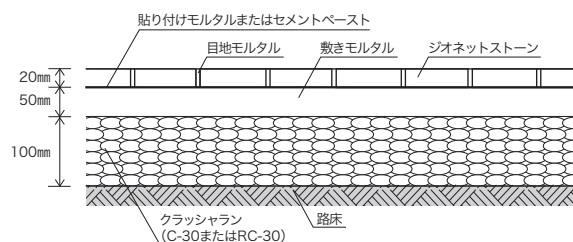
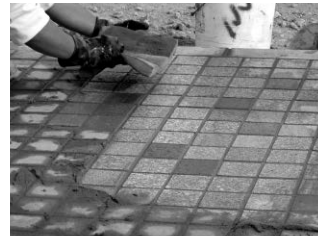


図14-1 ジオネットストーン参考施工図

### ▲ご注意

- ・敷きモルタルの平坦性が十分に確保されていないと不陸、または破損原因となります。
- ・路盤の締固めが不十分だと、支持力が不均一となり不陸、または破損原因となります。
- ・敷きモルタルに使用する細骨材は5mm以下の砂とし、シルトや泥分が少なく、ゴミ、小石などを含まないものを使用してください。
- ・小運搬時に片手で持つと、裏面のメッシュシートが切れやすくなりますのでご注意ください。
- ・ジオネットストーンは、車両が通行する場所でのご使用はお控えください。